



電醋病源三云上焦三停痰アッテ 脾南月三宿冷アルニ由 不解ノ声ト云り 八伊隆三丁音秋義三云飽食ノ息ナー禮記ノ註三云上一大樓三ツテ氣舒伸ラ得九丁アリ故に此證ラ支電 此一由テララ親人心脾胃ノ三藏皆此證アリ盖之大 心三屬又歌遊下ョり上了散又下夕胃二出少故三億ラナス 宇魔ラスモ 八陰盛ニレテトンア陽明ニ走ル陽明ノ終い 又是三丁意心ヨリ出八丁ラ言然之子診要經終論三天太 僕然小善·随之善順又脉解論三云太陰了公元上下心二走 日三一一元不其動應了大理論云心难八時就是書意

11111

稿又此正合谷妻人別名とに小しつ男えてり連縄 了刺毒合谷毒人果名之本條二見久り 松本一经水人三月二人之人人之云川又居经正云小湖沿 陽唐湯 なったは、まうえなりこ食いせズンテザットスル 逆スコノユニ好テ 感シテ 春酸ス氣息醋臭上 テ教ラ消スルファタハス敷省セザルトキハ服滿ンテ気 人條下三見一久り 云五指ノ又ノ 處三妻ア結と、城横えとノ俗三指又上名 経水ノ丁生なるダンテ懐胎元ラ暗胎去り湯

泄寫し〇八門三云鸭唐八清後己子院教化せ又甚しき トキハ脾敗肢冷心五瀉一種方清白三テ鴨一味

悪核腫 病源三云悪核腫八肉裏タモチ枝アンテ累さし 如少脈中二長短アリ皆其絡豚ラ逐ラ生ズ春冬惡風 射丁ノ毒三似タり とテ梅李ノ如ク小八豆粒ノ如ク皮肉燥漏に左右三走り 身中卒然トニテ起ル此風亦妻を被ラスはころと其亦 病源二云惡脉八身讓多五十五亦給財起小龍從

悪肉病源三云惡肉い身東タチでチ肉乃テ小豆ノ少な ラ受絡豚ノ中三入其血療結しテ生えん所と 風。傷ラルショッテ風肌肉三人疾血ヲ結シテ生スと 藏二人經豚ニ流テ妻トた因テ服薬とハ小便三億テ 如う痒カラズ痛でズスク治せサンハ長シテヤマズ春冬悪い他と細とトラテ長ク乃チ牛馬ノ乳ノ如ク亦雞冠人状ノ 物ラ出入状は形二似名に是ナリ 病源二云山飲食居處三姓ノ毒魚アニョッテ南 病源云恶城一名八滿大少事即一如堂以

〇下花 類家二十一十九十二人尹殺ス ナレト云り俗三云六ツ指ノ類力指ノフタ 房室ストハ近久八九白ニスギス遠久十餘日ラスキス魔 或八青色ナルモノアリならテ書テこう様モク飲酒ニテ ニニテ大サ栗松ノ如ク四傍殿ノ腫城へ上ラ色赤 月六月七月尤王毒产り初入地人状人如今中央紫黑 り二月二生じ八月二歳又人ラ数了唯三時ラ以テス五 内ラリ関ラテ命族ノ如ク其色赤ク黒ク智様理 御戶行樹皮,內及上屋壁一間二生又又喜了紙書 類家三云一人手二一枝ラ生ス痛苦イカーモスルフ

一三因为二云産後血軍野者呼う指風トスの文 胡臭い類でカラスノ臭ノスハンを育禁方二見なり 1八名時風上云り 所三波の別意思

人然不至為各位是一個打在三五五五五大多次多次其

〇左節

散走流主發流送人類と流注八前二生大此八後三生大散 走上人手定三五至几人〇百劫三天又以康安十名人乃 三ラ治又六氣的ラルモンチ 解し流注不生人心文死 要無熱三東ンテ走ル多三直ノ風 ラ疎し熱ン定へし

左搭串 查祖 病源三云查祖人狀隱珍赤夕起り今八查梅子 こ名ック松ハチラカスコンチ打タケニ生ズル故く○正宗三 魔シテ汁出ル は一九十是に其種ノ内三五アリ亦雅痛了少子時歌 スルモノラ 名ラ走散流注上云俗三水藤馬旗上云り ○準維三云 黄三 上テ 辨流せかれモノラ俗三馬旗上云串流 右ノ前二生ンラ 左ラ串左ノ肩二生こう右ラは

大古三云左搭右戸串キ 右搭左戸串り俱三治にカタし 云左格八肝三屬ス右格八肺三屬ス俱三左右ノ娟帽三生 世俗三江ウハサンハコト云腫物に两人腮が腫ルナリ冬の

三班是我的我的我的人是也大人內之三百長五人就五十八 古蓮花風百分三云坐古蓮花風八万古下浮種之戶 まっ生べんり西邊ノ大ノドラ針スでから中央一針ない 長一尺動っトキハ清水の吐ス出たキハ心痛し心の黄うとも 八死る赤虫八批生肉ノ如ク動クトナ人間はの焼虫八至ラ網 温ノ後天時正とカラで感發傳染スルモノアり多くの思種 ノ海疫へ〇正宗三云作腮ハ乃于風熱湿痰ノ生スルら口冬 痛ら初テ寒熱ラ愛スルこの入門三云墨愛上同し 小変かたにいると 成形家立ノ如ク胴腸ノ間コオスまる時上た極ルトキ

ラガルノ状アり食り得テ暫り止モノ是こつ人門云或ハ か如う腔内空とトンテー物ナキか如う飢らひう飢らアラズ 第二八十年三十二八八八年二十二八八年十八九年 〇古今醫統三云館雜ノ在火條於上一方腹中火ノ發元 京航客補悪心ラカス南ク胃脱痛ラナス三至ル乃師 アリ心血ウクシテにスルモノアリ食は数日と因テ館スルモノアリ 雑八谷ニュレラ心館上云田中ノ疾火ノ動ニョッテ館スルモノ 作小俗三云ムよノカクと胸揮を亦同じ〇襲廷賢が云ヶ館 注病一種ナリ産後ニョッテニラ得ル故産注し云り 辨春酸ノ條下ニアリの館八字書三食館之一三曹

在鄉 生氣通天論百汗出テ湿ラ見い乃座佛ラ生での 建三座排ラナス座八席、較い大ナリーろ其形廊三類ス 寒寒八寄た了機東ノコトクギル丁芒刺ノ如ク痛時常 部ョーカル 類話汗で生出い十十八玄府開り若湿無り見い必か 八小獅之亦八書珍こ〇馬玄臺が註三湿形疑結シラ 肩腰三留し甚シキモノハ変ラナン微かとモノハ赤ラナス座 アラズ軍事草刺甚二十五人皮損二ティカラナスト云の 一桜ストニをハルキチブトノ類痛い風ホロせノ類テルでし 八座三較六小ナットス則所謂風聽是ナリ〇正字云

解ルラミノ 云り〇按三其歌息ノ無ノ臭がかた故言名りなんで 鼻数ト云り 云八根名にテ、面二生ズルラ穀嘴磨トーと自界二生ズルラ 粉刺ト云り故三面三生ズルラ面粉刺ト分テ云ハラり飯ト 原雅音三云酒戲鼻の按及三是俗三云三キビノー教又 称大ナス乃小節ラナス是ラ名テ座上云鼓八支が切中 名以寒氣コニ薄液疑テ鼓ラナス即粉刺な苦醬 えい乃手座ス〇類注三云形勢之汗出于生 田風ニア 生氣通天論一勞汗之子風下又以寒樓子飲了文鬱 王機微義咳嗽門三云鰈嗽八臭ラグテュニるう

電塚、焦氏筆乗三云足記ノ東唐、師子根湯三テ足の 鎖骨直又缺分直与 鎖八門ノエビデタと缺盆ノ骨ノ程 解、字彙系與

九中三直习生又寒熱之作り飲食少少進三者情的急

端三次タラステ名シアと〇準縄三天一人有益的治力

小水利也不智度膨脹又是少缺盆直上名少丁鎖等上且

ツーツ 病源芸寿費へ密核が施連シテ大たと

ラ内發上ス陰三屬レア治しかタレ又生平情性了恭急從 ~三曹祭ラ食し或い補析ラな小腹三連り肛門墜室 結腫之刺痛与雖如人小使淋歷大便虚秘咳嗽痰力 生ご脈教三テ虚細寒熱住來夜過トキハ七甚上此 流注と結上テ腫塊ラナス其病内外ノ別虚實ノ殊たり こ易し内意致ス生人八陰虚三属ス湿熱肛門三灣入内臓 八肚門ノ肉窓テを他ノ如り孔頭緊閉ス此り外發之六治 門突腹之太便欲給肚腹寛力する小水利せべまときも り外三変スモノ多人質多人熱スト数ニニテカアりな 正宗三云職奏八醇酒厚味勤勞辛苦遊妄肛門二

二便乖達或八為之或八松之肛門ノ内蝕之テ經絡多律學 こ污水流通し大乳イカンモスハーナン○摘要三云清血シ下 こテ色鮮かルモノハ勝風ナリ血濁テ色 輪モノ、職主要す 妻ノ下血八公文進後ニアリ遠血上名ツク〇丹漢カ日近血 〇回春三云勝風ノ下血ハ公又葉前ニアリ近血ト名ツク職 八大肠ョリ来上逐血八小肠ョリ来ルト云り八戴无禮か 日職毒腸風ノ無腸ョり出の五棒ノ無農門蝕孔 (處ヨり出の 府風ノ條中三俱三ユラ辨な 此八小腹の鎖八トサスト讀り小兒生テ熱毒三

坐板意 亦願ノ類ナリ外科放言出まり 垂下小或八角アリ或八二收俗三産類ト名ツク宜ク大三 高ラヤハ生意ナン此症アッテ此法ラレラバ再生ランへ 心共二七處ヲ及城上紅赤ヲ取ヲ度トス須更三自通文 温水ラ以う先ロラ歌キ見ノ前後心并三隣ノ下手足 門ラ鎖テ大小使ラ通せザラとかと〇壽世保元三云鎖肚 八胎中熱毒ラ受生ョッテ壅盛之于肛門二結之木用 閉ラ通ばス腹脈ラ絶せいと欲スルモ人急三婦人のとこ 冬醫類家産後門三云産婦除ウョリー物竹りかっ

散弱 内障人一種之〇醫學網目三云野麻尹野又小好人 那三死一古今醫統二天帝玄科二云六月八日及上原中 気の神テルテコンサルという 三満ルモノハ其人愛死又宜ノ東申ラケナ三庭ラ旅伏七 日北南諸ノ生門ラ開キ諸ノ法司部事ラ聽過五百 ルーナカン銀テ過ル所ノ経・ライア其職三針奏スベン 後俱三野又過迎報人出人如心輕八三接七去了短腳一四 好頭旋アリテ眼洪り眼中時七三年宿先一眼ラ忠テ即 ナ青っちらし直り針とう撥フし 内障ノ一種の〇醫學綱目三云事花野ハ初ラ思ル

らむちろう 順生微論ニハ上アラ彭居ト名ケ中ノラ彭順下名丁下 三和しテ服ス八三處九击皆滅ノ名ラ斬三虎十云〇 年七月十六日去ルトコロノ手足ノ甲ラモツラ灰三焼ラ水 東申ノ日ラ以テ手ノ甲ラ去り丑ノ日足ノ甲ラ去りな 彭墳出三下尾 動場出ヨトスナハチ 害ラナスファメダニ 左ノ手ラ以テ心ラ神三尾ノ名ラ呼上死彭路出了来 とくこたり度やラケンハ三を長り絶テ人ランテ精神 成快三五神な勝ちこム每夜 書ラリアニー な通う 走馬喉風ノうくの智統三石暴發展が北スルモノ名ラ

三十六行、方療ノ種類しい入門三云状チ黒豆ノ如クへ 蔵ストーラは一良医石蔵用が云蟋螂ラ未上り指ニスルへ 走馬被風上云又鎖後風上云之 フ物ノ指八十八個人丁ラ党初終髮ノ如之数日アン 及正言一因了大光遍身一見一懼了急二級又以了 稍是一線八如一件勝常人如人工了下夕八人始一龍八大 と深夕胸膜これに他日露を見りまうえんして生い言くかって 祖二元八天三二一物域心の日曜出一一見災不了之 ラ生と明白ニラ生に三十六数三滿上及テ即死人 類案三載一人学ラ落御ラウケテチラアラ

李篇云北京上元年

里有可喜

明骨馬其并 貨船馬旗俱黄不事流見多り 北熱都下入門傷寒門三云少北人食数下利八上(为) こう野を安きてくて上此一般と真臓ノ氣盡に故る城殿 ズコラ炭ン上い熱闘ラかラ死ス名ラ北熱断下ト云り 又日發熱七小百齊冷方線之或八吐之或八漏之特

三仙人洞 直聖手足撤格し口燥語語驚歌優次之数日ナラス テ青節アリ四肢麻腹に変ごテ丁経トナリ版然トンラ症 發スルツラ三個个洞ト云り 又日小児未痘前大三子路力如り臉赤眼睛 幼科準縄ニ云小児平時再積ラ惠へ比大こ

爆病 婦人小親一一種ナリン病源三云燥物人聚ル大サ北 テ症随天形に症家 こう看橋印亦ト云り 你如人上下二声腹中苦痛之還テ两个一下三十上 止又未必愈べこう痘暗テ出しこう看を悟桐ト云り 手足開軸蛇皮三テ纏に裏カ如ク寒熱時ナラス黄連 若夫精三月水閉塞之本便難少病此如少力上者八其 三引天順害又飲食又以一世上一飲山界及上腹中大 見ストラ得不腰背重夕喜テ月と盗汗し足酸か こ久夕立元編小便 時才失山元居然之子的方 又日小児海事落为生心頭頭機寒旋鏡

子をきるのは難る次を

坐馬廳 死ノ火ニ生ズと○正宗ニ左ラ坐馬廊上之右ラ下馬 禁髮 本網白枝/附方三婦人蒜髮上云り病症未支 離トスニ郷ス関郷ト名クト云りい此肛門難に準絶こ、左ラ

上馬がトスト云り

客中時常小児ノランヤマとしいきいまた又人物ラミラ 熊キラと、ラ病しい今書」逆しれてしてるここ 一一一一一一一一

三之戸経于非常人物或八末識記ラ経サルノ人アンララ テ九ラ客上云り、人門云心氣不足亡人客或以果 人ニョ云アラズ客トハ常ナキノ義ナリニナンス物ラ指 ナリ見シラスな人ノ見テラカサンラビコルノ意と然を事ラ 生人異物了見子卒然上二万萬數二丁啼哭又文心志 せから三、丹室王家三云客作八中惡人謂アラで偶 中客十名ケスナ人トナック其状瘤三似戸は東上電 物ニアフ特、竹戸橋の一門城冷ラ痛多久夜啼ス 三人思神人氣上相竹とテ病フを大きる子客件上云又 华少(病源三云小児中客件八是小児八神氣軟弱

龜背 背高の出了龜ノ甲ノかった、故三名ケリ大人ニナン、 電胸一名、雞胸此智高の出了龜一胸ノ如クナル故る テ治せサンハせムシニナルと八入門三云電前八姓至及じ 乳子ノ時多ノ五辛冬傳淹藏ノ食スハ生し下人嬰孩 ク俗三云ハトム子の一類狂圖展三维胸ト云り龜背ノ 像下ニュラ辨で 来り息己二件八之 以テ思トせいで、小児心鑑三云少小ノ客作病八是外人 はトンラ響ラ開テ即跳クノミアを常ってり線変で ト欲スルノ状ノモノ是、作記さい、力多ノ故三各件トス宣

或い胸前高ク起り形龜ノ状ノ如こ此、肺經熱ラ受し レラ得い一年三者とテ切好ラ以下刺状ノ如う胃肠腹角 龜ノ如之多去痼疾上九間肺ノ命膈ノ食ラ奏を了る 事鬼排回 病源云鬼擊八鬼属ノ氣人。擊著九二 龍ニハテ致ストコロと或ハ小見坐ストフ早ク個優し背高い 上ラシメ競ラ用テコラ服ストキハ其原自ラ出 〇壽世保元三云龜胸龜沿並三龜尿ラ用ラ其骨節三 後急三十四痛上班按スペタラス或八吐血之或八鼻中ヨリ 照しテ自愈龜原ヲ取ノ法清蓮葉ラ用テ龜ラ安ご 起省八嬰児生し下テ背ラ渡い了アタハス客風 首ラ吹き

即城 北撃三同之前三見タリ 虹 かもノ孔ョリ出ルーし〇人門云 在活れョリ出ルモノ こう肌的ト云をヨリ出をノこうをぬト云心ト肝ト 安中ノ 元ョリ出ルモノコレラ 脚的上云 肾上膀胱した 八推て又強突スル 虚三乗しテれてし思味ノモノニ多カルへし撃い打ちり 得重キモハ多クハ死ス〇按上是邪祟ノ類思魅ノ那な 相觸突しテ排撃せえ、リラ致ス軽キモノ、困テ発へ 血ラ出し或い下血スー三起排上名ツクラる心八見排テ人 ナリ人氣血虚弱こテ精魂衰散及了アンア 忽于思神

魚口 便妻ノ漬テロノアキタルガ魚ノロニ似タル故ニ名ツク 京奔 寺疾方三云人忽于遍身ノ皮ノ底混ぐトレテ波 九處三種地不是ラ旗魔都十名ツクチノ少陽三焦ノ 経 属スルン 次 日本 〇回春:便毒演被小即魚口磨十十六月〇正宗三左 浪ノ声ノ如う痒キーなべカラスコレラ抓ハ血出ツ解スル 内一服とこれ、煎与細飲手愈 リアタハスコレラ氣奔上云古枝人参青塩 細辛各 方三般スルラ魚ロトレ右ノ方三發スルラ便毒トスト云り 準總三云項版兩乳ノ旁結核或八两勝ノ較力

息こラ又起ル故三名ケリ 調理ラヨクせが上四テ時二上時二化ルーラ致る此人 先注ふり太タ早キ三因テ積コトノク除カス或小朝命 服シテ以テ、氣血ノ虚ラ致スユへ心の要決三云体息動へ 入門云体息前八年月ラ経テ薩大京楽ラ過

魚腮風 作腮了へ〇百効三兩腮浮腫之子痛ぐ云り 意歸風 唯風ノ一種七〇百効ニ云喉頭三紅東第ラ生ス 亦松于様ノ如之义之テ白鱗ヲ起ス此症十二一天愈ら 八魚ノ水ラ吸が如き是ナリ治せて 職情風くつ供風ノ種類うの指掌三云魚口風

牛程題 正宗三云牛程塞八程途三奔急しテ熱脚水二 牛奶風百分三云是在手彎紅重原了出伸了了了多八 下し風ヲ見テ氣滞血枯ヲ致し結シテ頑硬トナリ スキ動様ニ似タルコアリの是手ノ風伸ナラズレテキ動 皮肉祭衛滋八文斯ノ腫ラ生し痛…腫高ノ突起し してした腹突起しテ行歩しカタクキノジカコトクア ノ支勝行かタンタンキトキハ破裂と膿水相流の選

九縣病源三一日代重長力四分。二日就重長力

ニッナガレタルヤウナル故三名ッケリ

郎山 病源三云食意い姿飢しへ心コレガタメニ痛山故三 電行發 百分三云亀背養八十二生之テ頭尾供三失子 四邊散大亀ノ形ノ如こ 今略之, 細微ナリ状菜虫ノ如こ〇其病ラナスノ次第病源三詳 三三日白重長丁一寸。四三日内重状爆香ノ如少五三日肺 瓜瓣ノからい日が由状生肉ノかし、九日焼虫至テ 由狀態ノから六三日胃重状蝦蟆ノからそ三日弱重然

喘悸之智背痛へ

郎如十云り

五壹一少寒氣會膈三填心故意塞之了通英

つ足ノ少陽降ノ經足ノ本陽膀胱ノ経ノ温熱下注 準縄ニ云足ノ外銀三直ラ生ズ此ラ脚拐毒ト名

マルモノ名テ氣外ト云リ 五林二八〇方考司妻氣凝鄉小便林歷身

當テ或八心腹刺痛之或八陽能とラ地ニタラル中悪ノ類 如之病源三見タリ 法病」一種之本他ノ病するとす思い事せる一時 正宗三云菌毒八乃手脾経了強熱疾持之天成其忠

王頂發 准總三云百會八九三祖ラ生又八此为王頂發下云 王就殖正宗三云王就植八生之产腦後就骨ノ中ニアリ聖 金思療 準縄三云類思療ラ生元此ラ金思療ト名了初 離し如し破しテ後筋頭しかし シテ漬カタラ痛有項引鼻塞り氣魔此太陽胸胱 温熱疑滞して成之〇聖濟總録三枕骨ノ上を増ラ生と メハ未粒ノ如う斯の大ミンテョフかっ久しゅしテ治せた湯 触しテ頰三透陽明ノ経三屬ス 眼胞ノ内三生ごう萬ノ如う頭大三三京帯小である長こっ 世出ツ甚らちそノハ眼翻して決ラ流ス亦ョク香物ラ致ス

塩湯ラステハ味をラドスへと 初、家我一如日扇楚寒熱大作上走陽浮泛言之宜力 四日三十元又又回背忽于麻木拍急之于痛一之数十 三テガルン状へ如う寒ラ酸シテ 歯味ズ如いナルモノハ 愛ノ肉紫色 李ノフル、状ノ如し此ラ南祖ト名で七甲 寒熱シテロッスルモノハエス 準縄三云禽祖 初ラ發スルモノをノ如う数十奏拳 無名種と腫瘍ノ除三見タリ

過有強之本際二見タリ

正宗云優鄉姓八多六手指一節一中生上一大紅

塩根ラ去ラ州ト云 故"沈金玉人尚」 記港坂、クソ去 焼ぬ八蟬ノ種類正宗三腫テ蟬ノ腹ノ如シト云り 即 我ノ如た上云義て又下能 個八年ノ字トナンラ見べし こう百足上云姓ハムンハ上讀り丹落ノ形蜿坦ノ姓名

テ方三衛の或日朝の戦地トラ戦をううは押雅三六俗

炭帯とう生べ初メ起ル疼ス日久とラ方三痛三痛久し

ナラス熱せで腫テ雌ノ腹ノ如こゆナチノ少陰ノ疾気

目乳汁ノ像下三年アル乳こう忌物上云小児こう飲 婦脚/腹三のタルナリ 俗三云マミツハリン総病型病共三同こ〇本州網 経水ノ三月二人を行う居經上云り漏胎見まり

變せスシラ度上急痛と手終三者八即手痛人風邪風搏 バ吐海シテ 無腔ノ病ラナス最もますりとスの媚いに ナリ其乳ラ飲ラ病生ズル故:病ノ名トせり 補云の禮切母之字景三云東海切音刀乳力又親母 痛動とが便手水霜がが所」かと故言無痛上去り テ生スルがく 年三身間ラ走り發作時アリ痛發スルトキハ散ラ熱シ 病源云人身忽然上一一痛打少如夕堪心力之不 病源云氣腫以其狀癰ノ如ノ頭ナフシテ産腫 同前継病ノ係下三見タリ

戴左然,飲形 一方源三云城廣八飲食、職ノ精氣アニョッラ テ小腫与核細での身外に過しの類家三云川山中ラ 五藏一人流一戶经絡二出戶多久頭項三生人或人然上

輕財靈 病源三云蚯蚓樓八是處飲食三蚯湖ノ氣了三ヨツ

クミラ治ス川山中八磯ノ長いよるこ

ラ腹内二人経絡二流ラ生不所之其根八大腸ラリ其状

坑衛俗三云イホシ〇入門卷五三云坑唐八魚縣張千日唐 ノ如こで様ここう多ク手足こ生スス梅氣磨ト名シノ宜ノ 初ラ起ルモニ文多るい餘八皆落神効ラリスれより 隨核演漏之

鮮悪 是モイボノし 坑塘見タリ ラステおんし、一古歌の小田中かか 火ノ甚らキシ此ロットツルト云のミアラズ全ク不食ナル 熱毒力心脾二流又舌强心唇青人握口聚面三天乳力 上ラミニー小池でり栗米ノ北ノ如と意三青葉布ラステ王 指ラ東温水ニと名と軽火ニ療被心即ロラ開テ安と版 飲三好グアリ初生七日四ラ恵上と「子りき」見ノ南銀 入門三云嘔吐こう全ク不食たモノ是ラ味ら上云雪 痢病ノ全ク不食たた症ラ云リ 入門三云樂中風八面自意亦氣當時声出一大品

洋所湯 緊唇 潘唇三見一月唇三角ラ生不了 思捻青入門云痘已三出テ外風寒ラ被り内熱上相起 楽ラ用とな とテ皮厚キモノニ多クコレアリ 或八紫三恭點ノ如人應好ノ如る俗三思接青上云年批三 發出ストラアメスス学發熱在福ラ致し遍身或な青っ

蘇海 心神ナリ〇人門三云為蒋小即于心神之原心虚血弱 積テ致ス所、外在験赤ノ唇紅口舌瘡ラ生し胸腸煩 問小便赤法り五心皆熱之盗汗發湯之盛ラ盛馨悸ス ョッラ神舎ラ守え更乳食調ラサルラれて人職熱ラ

花千

三世清夜見 就解附種 肺 再この入門三云氣神八即肺神原傷寒 ルン〇五案三云心三九十八難非大澤身壮執こ四股力 ナルと、医歯ハムシハムトは ナク面黄三肢赤っ寒ラ怕テ媛ラ愛こ口鼻乾燥元 傷風汗後勞後ョッテ更三乳食調ラガルフラかへ次 一生又或八汁流小所人處随テ即、糖上十九名テ在事 了一年了三年一天或八年 親汁ラ流し内三原為 一肺氣傷与受斗ラ致ス分上抗治十八兩倍三 野神之走馬子神 見到五神人ラナル急ナル

教育後ノ痕磨トナリタルラ云リルッをノ法病ニヤルキハ 思火丹系言電丹共二丹毒ノ種類ナリ丹毒ノ條下三見は 中解 病源三云俗三云盆器ラ以テ水ラ盛牛三飲之文其 此病十八戸瘡獲若病勢未除或八風冷湿毒三下夕 ラ生ズルナリノ 在ユー多年上云リ 餘水ラ用ラ手面ラ洗八八即一解ラ生で牛麻十名の其 秋皮厚シテコンラ孤八辨野ニシラ痒キ是く其裏こ出

戦験毒 病源三云 一東 ると領南處しう戦略了る

ルトキハダシクをサルン

名夕会にんと戦上時上時上の水蛭ノー之味を亦水蛭ノー種 其上名ケ水裏ラルハ馬與上名ツケ皆長サ四五すハカ 云フナと戦験八乃是兩種ノ物ナリの典八草東ラアハ山 生典八谷三云として本綱水蛭ノ秋名三大ナルモノラ馬東 甚タ痛マズンティア山西頭皆ヨク人血ラ朝血腹三滿 ツケ八即肉裏ニアイテチラ生ご数十枚三至ル日ラ経しべ サズト云ーナン粗渋り多久亀螺ノ数上三看モレ人肉二 川黒色ミンテ身滑や人山水行跡で八即人肉二看 八便于自う地ラツ甚タ毒宝子ら、味八十二文理ラナ 便干腫痒心隱較起り久々ここテ又磨樓上九〇按

新起的分形的 起服 痘庸り出るウナ大ニナル丁ン〇丹臺玉案三云起服八 ノ虚トス其間陽い氣虚トス陰い血虚トス陽ハ升トス後 陽八風暑汗アートス陰八寒温汗ナントス陰八内傷正氣 三日此病ノ正ナー 是點已三定テ毒氣盡力出より〇保赤全書三云夫 在八熟蒸三日放標三日起脹三日 貫腰三日收屬 ナリ本網三町間草蛭ノアナへこ 俗三云ヨー之〇八門三云陽八外感亦氣上又其間 起張ノラシ回春三八起泛ト云り 血分病ノ條下二見タリ

退牛或八米申一發之一子五三退分如十皆己子陰陽分 三發了ラス邪液之樂衛八畫八首上香上三行夕故ナリ 荣衛上並上行一日二一發又陰八臟邪上又深上募原横 陰八夜發是十多人那深之樂衛八夜胸上腹上二行夕故 連シテ正氣ト並ど行了アタハズ故三日ラ間テ蓄積シテ 春夏三十陰八降上之發秋冬三十陽八腑邪上之後之 又二日追り發之一日少住心七人及上日夜各一發又心七人 乃千發又或八三四日二一發又久上十時八處好了一陽八日 アル乃于東血トモニ病ラ受じ場ハ子ノ特ヨリヒニ至し 上ス陰八年ノ時ヨリ変三至上ス寅卯三後とテ申未

急驚風 慢驚風八陰在三テ治レカタク急騰風八陽在三 聽母 瘧疾久愈せ八腹二塊生べん是ラ瘧母ト云」母人 廟 五癇ノーツナリの別録三云牛癇ハ牛ノ吼声ラナス牛 ラステ丑三属ス手ノ太陰温土コンラ主ルこ 年ヲ経月ヲ界タルラ瘧母ト云又等龍ト云り 中地ヨー震發スル故三龍ノ母上云義之〇要訣三云久潭 暑温ノ東三感ごラ生ズル所と タズト云症障テ薬フ用ユンンの按上六種な輝震寒 電母龍十月種類尤多之名同力文十一下皆外風寒 湿應食應 北潭 性應之又変應 思聽 难應 勞應 老

テ治シヤスショ壽世保元三云急騰風八内鬱熱アリ外風 和白其状上肾人脈連川下陰囊三及ブ多人號哭然 邪ラサンハサニ心家熱ラ受テ積テ騰又其症牙関緊急 北熱延潮電視及張滿賴檀動唇中眉眼取引又心 二得因テ子アンア胎病ラウえ 三年老或八年少少一天病多夕陰養精怯强力テ房三人 是十月或八小児至亦此疾了り俗品像歷上名夕之人父已 公子得上き公氣欝シテ 脹ル焼突然感能が即氣散スル 七病二以腹多千眼子是又夕去千止了張子 為風上順症上相力子产起ルシ

筋極無極一些六極了一種十一虚極實極ノ别アリ六极 いて夕三或い痛がしこ〇入門三云氣瘦い素ヨー温熱アッラ 怒激ヨッテ相火ラ起と昏眩手搐とテ在ノ如ク面黑ク **奉光能左右二相過**之 ノ條下三論之の テ膿ラナン東急筋織り或八莖中痛ラナン痛三極と キハ痒の政八挺然とアルマラダ或ハ白キ物ラ出とテ精ノ 如夕渡三隆テ下ル己ラ房室勢傷邪術ノ使所二得之 陰藏八種類十川此七情過更ヨッテ氣虚心陰莖 七病二少之〇張子和白其狀陰莖腫脹之或八清

五弹二少之肝一應又痺病筋了生人手足照伸 アタハス夜町シテないクー多ク小便頻数ナルナー 俄三篇半年ナイキをとと体ハロノ動との入門三云思 物ででへれいきり病ラ得いし中悪和祟り類チリ 雲林が日陽風ノ下血ハ必ズ葉前ラリ近血ト名ク 中悪ノ類ナリモノ、祟た病すり

Married Married

時二作り時二止会人人來了

季っきてきょういいぬうぬせいと又取弦濡い者八虚し

心過度之大驚大恐ョンテンテ心虚停孩子致心或八

大声之間目異物之見色十二點事三獨テスナ

葵文頭痛又但煩熱不七人力虚煩上云〇病源三云心煩 コルフン難治ノ症こ サカ三下虚ストラナン脚手心熱し皮焦無數ノ怪症ラ ラナン変ラナン熱ラナン吐血的血ラナン盗汗遺精ラナン上 血力勞傷之或八酒色過度之一漸名果陰動損人上至力 相火隨テ旺ズ火旺ズルトキハ真陰ラ鎖火シテ歌ラナン喘 心胸煩擾之一字为子也〇要決云思寒之子身 勞 症之同前人不 血八人人 学成了症之元氣不足ヨー心野力九丁アツテ或公氣果然異類ノモノラ懐胎スルラス、テ思胎上云!

テ眠いりラエザルモノいかの但康順とテ眠かり得れて 三日金庸八九万万三傷之或八破锋割損えてり、後手 八皮破し血流テ己深きモ人筋動血飛テ住でえ 日参身モ十割ラ被ルト云で通し丁金磨ト云り〇正宗 キリキズこ本金都之割、字書三傷ナリな割字、也漢

毙我妻 病源三云此飲食居處鵝娘/毒ア生ョン

村丁唐 病源三六十丁唐八成色異之文但腫一頭

こう被、黄水ラ出ス四邊赤ノ菜 東京一次をモノ

牛丁塘上云り

逆産」正産ニアス正三カフラ甘逆産ー云り 勒要 病源三云腫痛ラ初テ生ンテ大サ桃ノ状ノ如久亦有 生に傍行ス世三呼ラ石鞠寝上る按三朝八秋子之俗言す トナトニテノサクト云ルかかりはニツラくトを強ノ出いし ノ如う膿潰しきたトナル治せガンハ石樓トナリ化シテ鞠ラ 尾ラナンラ自ラ酸ラヘラ軟大サ本升ノかと三年三至テ 人ラ殺ストスリ り腫手ラでがかるこう痒しこう投い疾痒へ百日ニモラ 人經路三流テ生ズル所之が生る、時状異人致ノ如丁 丁八般アリ深サラサ 中二 暖娘り生し乃、百数ノ焼娘了

脉一發源腎脈一過脈十八大飲食起居調損三因三足人 然上等亦漸少長大少氣結等成占己小児啼手大 三陰ノ致ス所之或八外大東三岐一天成上一六月 乳ラグラニラ飲らい国ラ、東息ラニテ味は七人消散 風熱和氣心東心精神定る九故 病源云氣瘦八狀頸下八皮寬力內結突起上娘七 小見精帝是眼睡八中二忽然上上了啼鶴戸堂上 アンノキとス三糖ラ生ズルこ〇八門三子脚跟ハ乃子町 紅孫然別名之本條三見夕り 当は歌シテ要ラナスと寝い頭を

腳跟頭 病源三云腳跟顏八腳跟忽千痛了地三看了为工 雄カニテ刺いりから此皆経ノ虚ヨッテ風毒ノ気コラ破 ス世一呼テ脚跟顔しス類ハクツトト讀り リラ血氣上相搏故三痛テ結聯ニテ散せかしく 痼疾トナリテ配カタン 即う包三相交リテ黄水流出ラ痒をなべたろくべこう ラ生ズ初メ栗ノ如ノ斯ノ大ニシテが投テロズドラナンテ 入門三云足掌或八足指八縫間三生三色赤八腫痛 病源三云腳下二結物及一等時間三二万石一如名雅 アンノコムラを奢ラ生ズルこの入門三云脚北ノ上を落 CHE

服網モハ足ノ三陽三屬ス湿熱下注へただヤス之機之赤る 八陰敗ル治せス 二三ラ腫痛失潰膿せべ煩熱湯ラ作小便 冰塵又生 放う腫膿清モノハ足ノ三陰ノ野損三面ス治レガタレモン果

有發 人門三云脚首發八又脱非打上名为五 赤ヶ痛ラナン自潰ルモノハ治スへと重キモノ八色路と 界経ノ出ル所野氣ノ虚三由ラ風町腠理三客ト スルラ以三く方手背及と手指三恵ルモノアリ経さ たランテ 楽させっとんしり 致大故に物被ルと 病源云那心坑開入了一世三二月即破上云即心八

船等小児船、指縮リテ伸花之〇書世三云腳拳テ展 意黄 黄病一種力の病源云脾胃三熱アリテ教風内 思新 三衛来、シラ熱毒コニかり故三年然トンラ黄ラ發之心 サ八京上コン門氣不足榮氣水滿腳ノ指奏縮シテ 滿氣喘ス命項刻ニアり故三急大青ト云り せストラ深カラで放っこう思哉頭上謂り かちこう伸放ストーマハサルし ○病源三云人風犯頭アッテ偏虚ノ處アンバ製を落 肌肉枯死ス或八銭ノ大サノ如ク或八指ノ大サノ如之髮生 我、すべた前り俗三蚰蜒が我にトラブかって、

怪痛 心痛九ツ一種こう人門三天悸痛八内七情三因軽手 が直 被眼道了、本條三見タリ 又曰便事左右兩邊俱發又或八下ツ野塘アラを立或八 上大佐中衛季之痛三似了痛三とう人重十十二人而日赤 留統三云花をこむりなが便手退全因テ 内ノ節 至八事痛治せで 了ここへ門云騎馬八两边名の里で元ノミ 多起に疼痛らチ發ス〇回春云便事一六 題 想 要相人條下三是了

聽後怪在 せス處了黑本色ノ如ク十日ラ過ラ漸ノ有三至テ肉と 三煎三百二飲丁三錢連服不丁五日三二一意 相ツチーラ堅丁金石三勝しり飲食スルニまと澤湯湯 ラテ久児ノ帝かから筋肉ノ化トス雷克雄黄等分ラ 用ラ末トナン猪肉ノ上三様ラ肉ラダテコー・食せこの 毒之太黄が育各半两末トナン水三テ服ス即愈内解内が施しテ蝶ノ形ノ如ミテ去痛忍がラス是 類家三五人野アンナ蟹ノ如ニンテ皮ノ下ラ走テ声 前疾方三云口鼻ノ中氣出了盤遊与散

肥死患 九モノアリ其事ラ被ルコンラ全様調毒ト云腹中痘痛 了死ント欲又樂の男へ大三七出又全線了孔娶了如ナル 督林=出り即足常ニショラテと俗ニ云マブラ 督林小児門三云厚校上即于額汗出し 類案三見タリ東血虚と風かう受り症より 東風ノーン谷三云をごナり 類案三云一婦人暴力採三因尹金惠ノ韓山如

內障一種之〇醫學網月三去頭腦打禁

毒ラ制ス故三云り火吾宮火上八野之遂三葵并三雄高ラ 以テコンラ治しラ果とテ念の是毒ニアタクラ狂ラ發スな 犯スセル女ハ心ノ神小好八押ノ神心醫經二言雜篇八数 盡一九雜前火五四日十一道士アッテ云是林俊ノ毒ラ 女子ラ見い官殿ノ中へ引入小姑歌いとなり後:歌ラ云 五靈樓閣院珍職天府由来是四中間接問懷言了 針ろべし 悉了眼八針を宜力ラ文華損ノ後に患ルノ眼八宜クコレミ 思血眼内三流上入二三年三至テ勢ラナス勢白色の 洞微志三云齊州三人アリ在ラ东テ云夢中三紅蒙ノ

八甲肉三八九タメニ使于朝ラをラテスと足指了る 三因テ白膜ラ生ごラ五ノをかかること時或小痛或い腫 眼疾七十二番八一種この醫統三云山熱鬱退かん 股ラ磨テ一行かタノ手足電弱スト云り 智統三云丁少年玉並挺長し随う後と皮掛き 八睛三湯テ明 足ノ指人マタニ生ズル磨し〇入門三云都指 了種類と〇八門三云色赤ヶ道起り破し グラ失スルく

コロ盖と肝熱水酒ラ野氣祭せて故三精七ラ筋縁するれ 魚精病 村首 多骨疽亦朽骨上名夕準繩三見文川 うり 宜り地黄丸ラ以了野水ラ滋し以了肝血ラ生スルラ 屯焼或八怒于肝火ラ動之或八肝三洋東ラ客トとラ致又ト スルーラ得ラ即于安こしカラダルトキハ病是髪胃ニヘテ 原山三変りせこ一後三化ノ由トたと こう破い意水陰出四畔浮歌又其毒かモ甚こ 俗三云十小之〇準絕丟脫八肝路少陽少経夏風熱 見前〇八門三云漆頭黑十一深夕形千海鄉 八門三云油ラ五碗、カり飲ラ方三快ク常三味

以了器とえて心蛛線ラ用テ經常娘に飲文矣う著多 手ノ太陽ノ別虚なトキハガラ生ズ小九者八指動所 八誤ラ致ス大抵此症血燥結技上相同之〇經豚第三 云たでいい問しむ二作八俗学り 南中志三云水昌郡三禁水下惟十一二月三渡 ノ類トス〇是ラ以テ見トキハ大脱フコブト云小れライボト 如こ註を教となったナルトキハルトス小たトキハ指問亦か 是射工溪思人類之〇本網溪思殿八條下三後三 唱出一條下=見タリ 水禁條下二雜之。五禁八品了

津液已三耗虚陽外三發之テ内外俱三虚ス此习極病力 ラツュ見ノロ中ラ村へと舌上ノ悪血機震路己ラ玉衛ト 行トスマ思張上云者八深夕思ラ畏り神り成思養者 云若帝声一發之八即手腹三八百病トナんろ 八眼人又殺又其氣感物でり奉み作了其形の見べ 中八明青ノ欄に名テ思彈上云り 幼科準縄三云嬰児新産胎为出八急二綿少學能 要決瘡毒門三云消湯の病ノ人多ク毒ラ生人此乃 痘打ノア之〇準耀痘打八條下二里養子ラ以予痘

遊面瘋上名力治陳沙糖习用酒二調了服又每日二 八氣内、遊しテ宣散でアクハズ故、其病但原満上奉 之皮膚ノ間、遊走とテ肉上後とう光工是こ 病源云夫五職調ラ九トキハ三焦ノ氣滿滿七 病源三云遊腫一使青黄赤白ニュラマタ定九色十 百分三云頭面孔了生之子膿习出山泉

遊火丹 丹毒了一種十り〇柄源三云丹兩群及上背三發之三大 炎,如キモノコレラ 遊水丹ト云り 光亮三字釋了由ノ行力如之此皆風熱虚!乘三方改注 養スケーアタハス故三主髪根空こう 現落こうけっさと皮膚 チ生ごテ豆ノ如ク或ハ結筋ノ如ク或ハ五筒或八七首相 連り肌裏ホン内ヨリ強しこう死自ト云此風邪肌肉 博了変生不是〇本網一地看子攀下同夕照月ラ光で 正宗三云油風八乃于血虚三方氣三随戶肌骨多樂 俗三云蘇則之〇病源三云疣自八人八手足八邊

丁齊病源云大步錢一如孔烏廳三二千冬 涌泉一九三發之少毛涌泉道上云り同名 整在之事 云涌泉疽腫起本陰一發三大陰兒尾 モ人尚治えべし 日ニンテ孔アガン、死ス又日足心毒ラ發三ヶ腫痛な少モ 少少陰腎経三篇又虚損人致ストコロン 畔人治災色赤クス赤栗アリカナをこう腹スコンラ 亦涌泉疽上名夕俗三病穿板上名少又穿寫天蛇上名 病源三云股三發又發之一清機亦黑七八死又白牛 俗三云カメノ尾ノ前三班ラ酸スルラ云リ又足ノベノ 休見つから十

遊走血脚離 老鼠横了て前三見タリ 中熱メ湧左ラ下トン右ラ上トス皆五臓ノ應こな湯流ト ズ熱ラ新生ノラ名テ雄丁第トスと〇丁八方と同こ 類案三六脉三五職ノ氣ナク右石脉大三ラ數之數人

眠療的破脈 共一俗三云上コグメナリ〇回春虚勞門三久分配 幽癰 嚇雞ノ係下三見タリ テ眼帝ラ生スト云リ〇玉機真藏論三脱内破腫ト云り類 〇女部

面湮瘡外科精義云小児面連婚又銀銀瘡上名 西野刺字 俗云十年るこの百勢面滑ノ刺学ラ去のな 眼精痛又寒発尼云り〇奇疾方三云身面上ノ療描 肉敗之服的名切筋肉結聚スプ处で答玄子が目时於 見ノ服三似テ北米アリテ腰血ナク但痛痒常さる飲食 山中一片ラ用ラ糖米ラ熱ラ泥ノ如三一一調、字元听二 後肉塊一如子儿者ナリ 註 院內上,肌內消上盡之破圖上,即了久了骨電子前 茶帕ラガム了一夜次一里見で大一云り 少ス名ラ寒、磨上日多少難魚葱韭ラ哭こテ自

面風毒準鄉三云眉心三直ラ生が是ラ眉心道下名う一三面 面腫ながり腫れ症と 面塵 經云陽明八司天爆淫八勝上二口民盛乾面塵ラ病 面的 俗三云ニキビノアン雀斑面皰七月七日露蜂子ラ東 風毒上名之足人太陽膀胱経三屬又風熱难結与陰陽 添花/中ライテ水酒三浸し過ご汁ラ福胡粉三調テ ト云りの面アカツキタル様ミテ光澤ナキテイと こラ傳音齊方ニ出タリ 五銭生白攀二銭ラ用テ末トナン油ラ調ラユラ茶を 母胎ラ受心時酸辣い那物ラ食ニテ致ストコテリ

相滞テ生ズルと

緊面三色ナク心煩上氣盛乾十善暖ス心三應えた 五寿二之肛門一邊三磨尹生心難与又痛出血又 六極ノーツと虚實ノ差別アリ六極ノ條下三論 五頭ノーツン頭豚ニアトキハ血滞リ六脉満こテ

溢或公益」作心可疾方云も一般節ノ次子」血出

爾門月が タハマがちょう一式八食スルーアダハスト云り 火アンナリ う血毛ノ孔ヨー 出ルし心ハ血ラ主リ又汗ラ主ル極虚こテ 即安之〇本綱主治部云血汗即肌如又脉溢名 モン血出サバ皮服膨らラ鼓ノ如之須更三テ眼鼻足 三服合きた此ラ豚溢ト名ツク生姜水汁丁一選ラ飲ラ 満肚ノつく雑娘ドラモチコス了と 病源三云發之テ項习環始病身障テ熱之動了ア

寒毒肌骨ノ中ニカ之春三至テ変ンテ温病トナリ夏 八変三三番病上九又熱病モ云り量病八温病ョー生 或八平三非常人冷ラ受力寒毒肌層三東ご冬三月三人 辛苦人人奉夏三公又温暑之病了生人皆其冬時觸冒 ラ人ヲ害ス而与傷寒ヲ甚上ス殺厲之無其来 ら其 冬寒三傷ララ即病ラ傷寒ト云り即病ズンラ其 文所之時行人無言之矣○順生散論云大六氣皆日 〇志部 テリ若督虚ノ人八太陽固カラズ備三寒三感

傷風 要決三云傷風傷寒俗三呼テ傷寒上入陰陽二二 ヲ惡テ汗ナント ル風ヲ惡テ汗アり除氣太陽ヲれストキハ傷寒・ナル寒 氣皆ヨノ職腑ヲ犯ス故三陽氣太陽ヲ犯ストキハ傷風上ナ トキハ傷寒むト云り 制ス況や金令三至ル金八寒ラ得テ愈堅し故三秋至上 アステ發せサンハロ三大氣ノタメ三勝ル長夏ノ温土又水和ラ テ京病トスト言サルモハ何が寒水ノ氣火ト仇女り仇こ スルラ名ラ温病ト云春ナラ發せ、夏至ラ發ス少名テ 病上云スデ是冬食ノ寒時今随テ名ラ更之独秋至

傷者 暑一傷心八公又自汗之首寒之面垢干或八口熟之煩 問之或八頭終發熱之神思倦怠殊三甚之所謂暑公氣ラ 便秘談之大便多夕世上腰腳頭冷又皆里湿人地二半郎 感酸級與見為您之食为畏之頭痛發熱恶寒之之病傷 傷リラ形ラ傷ラズ是こは身體痛てズ風寒を感ズルト非い 以又食為医子 俗三云ルショクタンリン其症胸膈痞塞吐逆 正或八兩審一計と或八派衣ラ者テ致ス所し 表三 似ター但身痛でサルノニ 其症發熱惡寒之身重夕自汗二子骨節疼痛之小 此常酒为好了飲人酒品傷己惡心吃逆之子

心痛公子八人或八牌疼上又冒脆偏民云川〇 酒麻或酒積是有多夕酒ラ飲腹中三結聚之塊トナリ魚三道 正傳三云夫胃八脾八府夕川陽八陰二先父以故三臟之父 ス四郎中三酒ラ飲大三醉風三當り水二人に由ラ致大方 黄ラ俊之心中惧痛之足腔滿戶小便黄三面:赤野餐 是ヲ酒黄ト云リ テ上下えラ酒癖ト云り 酒の吐出と各冒眩暈之頭痛とう破か如き等人症と 酒黄モ同シーン五前ノーツシの野書大全二不多日三 要決三云多夕酒之飲了積牌三人心逐二苦道上人

病スシラ府先病とはシララ腸下三至り切り湯ノ痛ノな モノ己連ラ職三及で古方三脚疼トナスモノ是之胃ノ上口 旦一後三大好三死ス〇医書大全三云其種九アリの一日日出 ッ名ラ意門ト云心上相連ル故三経三所謂胃脱心三當テ 三〇樣要三云真心痛八其痛甚之手足者之一節三至り 飲了結聚等心胞三停产経路习傷工重丰下午八心膈引 痛いトテノ俗呼テ心痛トスモノハイマタ此義に達せなり 上人に其實八百外那氣:感之內生冷:傷心!由テ 福二百度福二百風福四日降痛。五日食痛。六日 飲痛。七日寒痛。八日熱痛。九日来去痛名同カラス

傷寒發順 又活毒在腮額發汗作類任云之傷寒之發 真心痛心痛一條下二見夕り按二中俗常二心偏上林 八百少陰一歌陰八氣逆上人又痛極八十十八發厥人几 内心或い他職ノ那心ノ支味フ犯ス己ラ歌ト云モ人諸痛 一日ニシテ即于死又厥心痛八内外一那心,胞絡ラれスニ コニ非人八八門三云真心備八洛外ノ都心君ラれ至因テ レラ 見三死ノ寒カナルー学ラカへスカかとが石ノヨク治スルト 痛ノ如キハ往や三在ア往や三治ス真心痛ノかキハをくくコ えモノハ胃脱痛へ故:真ノ字うかへテコラ分ツ胃院 痛! 軽キトキハギヤスル

時に 散が足ラズンラ汗がトいコラリア生スに煙物し〇正宗云傷 寒發順亦汗毒上名了此原風寒,又受東多用了發散 三直ノ發スル山ノ原發ト名ノ不治ノむより スルラシ致ス〇準縄ニ云思放毒ラ生ス此ヲ思該發下名う 風熱ノ致スがこ又日觀骨ノ下題鎮ノ上耳ノ前丁丁三分 ナルベクシテ及テ寒う夏宜の熱スペクシテ及テクな 肌肉浮テ骨三者だモノラ非思ト名ク俱三陽明言 了了〇正宗三云夫特妻、天行特無人病之春色 俗三云エハンと四時ノ塩寝ヨッテ頭面耳項 日久とラ熱ラナンラ散せズ以テ項ノ前後結腫疾病

拜漏 時八小肉突出之了破しガラ云川漏八己二遺元殿血 ラ出スラ云り世俗蒋八匹門ノ邊ノミュ生ズト思八り他所 ス九ツ人九家ノ中ニシーテ但小太突起之一下皆寺上云 云陽神ラ特トス大澤ノ中小山アッテ、宋出スカ如ラ特と 特取門人と生ズルモノこう名んく三非文亦事時眼 ニテモ特ト云ハアルと漏ハ漏塘二見タリン三因三云経 愛スルラ真トス 分治アリ初ラ起ル風寒ト相類ス惟頭南耳項腫ラ シラ發シラ斯病ラナス自ラ陰陽表裏寒熱虚質 當京之たべるテ反テ温力九此四時不正人感之人意

等子等キアリト云り〇時ノ五種八十年勝時血時北時 状ラ見て一種で同カラズ日牛奶日尾が日難心日難肝日 蓮花日翻花日蜂窩日穿腸名状一ナラズト 人及其因八亦 脉痔是ナリス臀鑑:青二十四種フター〇医統三云其名 えばないた種でもはなる ノキモノ俱三是この医学綱目云腫病八離疽赤腹ラア 題面手足胸腹等人處:物灵城恭 腫硬之一然 明ふこ又腫瘍ト名ク又虚場ト名ク但腫ラ頭ナク面 無名種毒之又虚場ト名クロ準繩三云無名腫毒ハ 手一門三響在ラ生で心を毒深る骨三五十ラ変

大サノ如ノ或八聚栗ノ如ノ或八穀樓ノ如シこラ技が然 ルラ發手背トス〇百効三云手流又手發背上名夕此症 肝膽小肠ノ経三属スチ首及と指ノ間三患或八黄豆ノ アリア長キ丁三四寸赤黒ナラサルモノハ治人其、狀黒キモ 育=満ラ腫滿ラ後毒ヲ取ラ流ラナス深クヘラ骨三至 三年直り發入初了生とテ秋朝ノ如頭腦ナク頭然トレラチ 手指下云川百效三手就又手發背下名少又蜘蛛背下名 名八次〇準繩三云手發首俗二蜘蛛背上名ク兩手八首 蜘蛛ノ状三似文に故三名えたトテリ但上帝ヨリ緑ノ出八枚

手流手發背三見タリホハ俗三云コブノフショブ六中三級ノ如 浸淫魔人門二云浸淫魔八切テ生べし上、海のかり ナルモノアリ故事の頭ヲ核出せバ終アリナ云り死公説文 爾也字景二音由瘤也莊子三乃聲垂疣上云り 後一痛八十出了浸怪之肌肉习温爛之延テ福身二 至い若いヨリ發と出了四肢流散スピー八軽ク四肢 ヨリの設主シテ然後ニロマモノ重し 俗三云名土中之〇本網主治部三云瘢風八是白班 手二生心痒クタンテとりがしの百効三云酸シンラ 入門二云浸淫強八初テ生ズル甚ダ小之先痒と

林眼發 又竟躰疽上名ク疽ノ大九七と〇準縄云背 雌丁発 病源三云雌丁強入頭ラ小ク黄三妻三向テ際に 領ノ皮ノ如クニ三尺が川山の意体症上名ツク又椒眼 上三直ラ生し肉色変せス麻木し微り痒り頑ナニシラ牛 モノこヲ雌丁藩ト云り 亦灸瘡二似タリ四畔ノ泡紫外赤ク大竹錢ノ如少孔 アツナ汁多の腫テ痛マズ落内十字ノ書アッテでラがル 大サノ如ク亦痒痛アラズコレラ赤班上云 片赤キモノラ赤斑ト名ツク○病源三云面及ど身體皮 肉変シテ赤ク肉色ト同力で或ハ手大サノ如の或八銭ノ

蛇邊 病源三云蛇瓊八居處飲食三蛇毒之氣アショッテ 後上名ック〇八門三五寸ヨリモノ三至ルラ祖上ス一尺ヨリ 二尺三至ルラ竟体直上名力 府藏三、経豚三流」寒熱結腫シテ出に處定ハフナン 漫上ヨッテ矮トた服薬でい物アッテ小便三随テ出 北ノ形状ノ如之故ヨンラ蛇瓊ト云り

雀樓 病源三云居處飲食三食人妻無不了戒三人脉二

流發定止處十二腫潰テ妻上九乗ラ服スが物マンテ小

赤白婆病源云陰刀患人其色赤白分明三二万因之種

ナンバンラ赤白樓ト云り

人面落正宗三云本面磨古三生不了アルト大庄近世二 上水魚 準繩三云膝/的職指紋三近人處結核腫痛久 雀眼癖 病源三云雀眼癖八風湿生元前之其文細三 但核が移長とテ無ノ状ノ如こ上水魚ト名つる 華し中二 五 ラ生スト云り こテ雀眼三似文に故三 こラ雀眼癖上云リコラ搔い亦 結シテ班トナルウ ○正宗三云雀班八乃野水上三荣華ス九丁了六人失流市 便ヨー出ッ状雀髪ノ如し故ニシラ雀樓と云 俗三云ソバカタノ了この百効三面上産郷の色上云り

ラ聞ついと其病ラ生ズル丁男ニテララ受かり必久野さ 魔教全人人面三似外!眼鼻口俱至之多久膝上生不 ク心ラ清し戦海にテ過ラ改义自新三人心然後方公六六 育= 想にそアリ方書三機三日云積焼ノ致ス所心上先預 八乃眉雪歌口月閉次三生肌飲口之樂月用天息了事得不 上上之〇酉陽雜祖三两臂忽于第ラ病了六七處小たモ人 味流氣飲ラ服之外三八月安ラ用テキトナンコンラ敷 ロラ州タトキニダス大三痛三地とドスロ別が復動して三酒ラ 紀訓」第口唇三似テキラリテあさし飲まり」及多手入但 柳葉ノ如ク大たとく八銭ノ如と皆人面ラチスト云り〇見聞

野職風痛 入門三云此腹藥三下之亦外野風強三下之乃 心難無道入門三云胸乳人間三蜂寒癰發力生人并有一名力 蛇章 瘭班一别名之〇正宗三云瘭班一六蛇璋十名沙川 テ死ス〇又心道上称スレアリ正宗二見タリ 秋豆ノ大サノ如ク三四日三起ル早ノ治さけい腹三入十日三 廣烟瘴ノ地面ニュンアート云に瘭疽、係二詳ナリ 三ラ痛~太但極痒」三ラ林八白むラ起ス名テ蛇虱云 こ準縄三云遍身三起り風疹亦丹ノ状ノ如ク其色白ク 飲したが四周皆なとト云り 遍身三生と珍弥かかことテランラをい白うコンスカナリ

新婦常 病源云湾,狀腰刀繞于生心蠼螋就了如人但 野虚・テ火アり血燥キ或八色ラ思と精出テズンテ内三敗ル 初一起此两足時三熱之腳跟多久內腔或職上三於一天 痒了极了城被二天唐上九久三十十大能漸久延開之后 職がノスルースル三是風湿血氣ヲ持テ生だがし世 ラ失るい態股遍身三至ルモノコンアリ 名大人是这看倫思不是及了戶風是血無力博変三 病源云山人馆十数首展以上一處三生又因テ以テ 呼ラ新婦落上たこ

上格ナリ 縄云肩膊ノ後ノ骨上三班ラ生ズツラ上鼠班上名ク即 肩膊ノ骨ノ上三生ズ育後殖氏上格氏云二〇準

手足三起ルルア・風寒ノ氣皮毛三樹レテ血肌表ラ祭 上鼠祖了事十八上格手上元同之二 手足ノ皮と心タル如テリテ痛心○正宗三云酸八皆

孫務 俗三云ウルニカブレタル了〇正宗三云俗三大生云〇 病源三云添三毒了り人線性添力畏心了り添了三八便

校苦こテ生ズルナリ

せサルトラ致ス調皮稿トキ公痛多之皮ナキノ状二似名是

其毒了人工面學之然多後胸骨腔腸皆委之審學 面三起腫ラ為微力赤力諸所ノ痒中處チラ以テ己ラ孫 去其状大心離ノ色変サー云りの四周名、一一別症と 八手三随戸華展レテ起ル重キモ八遍身三強ラ生し 疼痛し摘破ハルレク定リ小ラ魔ファリ暗ラ更生で 白肉九處多屬上云之同樣二云膝三發之上名于在麻 兵状赤黒と急ニュノラ治生五類註三月脾ノ下軟ュニテ リュルモノ麻豆ノ如ク大ナルモノを落ノ如クニシテ腊 琴字綱目三云徐祖、神及に陰股二生又上云り 遼極離直篇三云肩及上騰三發又上名天在麻

催日 俗云トリ日之西刻ノ前ヨリ見せんへ病源云人 赤施 靈樞雅祖篇三云股陰三發不力名方赤施上云急 云言心、禹雀ノ與三一便見上口上キカ如し 書八晴明三テ戦三至テ便手物ラ見が、己ラ雀自ト 氣ラ四末=受テ大難其間=淫ス陽毒ノ成三極ルナリ 其状太離之急三三ラ治七ョ百日三上テ死ス類注云陽 テ當死類註一股陰八大股人内ノ側へ 三治せせい六十日三死ス兩股ノ内ラルハ治生がハ十日三こ 小児デリノ腫テ高ノナラン〇入門三天顔鎮八題は 電福離祖篇三云足ノ上下三發九名テ四淫上云

食痒乳神同一乳食三傷三十生だん故三乳痒に食丼に云り 腫起心脾い肌肉ラ主心乳哺常する飢飽度する或い 上方填展し顧高上テ突しも髪短黄三一戸自行人( 上テ跳動 久處 己ラ 顔門ト云り 歩或八熱脾:乗ごテ以テ致ス臓府調ラダ其風上衝 類经圖其云煎、音信腦盖骨之嬰児腦骨大去軟 人職腑熟湯しテ水般ラ飲了か三因テ世利ラケスアラ致し スシート十分級血虚弱シテ上脂體ラボルファタンズ故: 題 リテガネン手満たりみ得かし 小児ラトリーにアティーへへつきる題門坑ラナない

乳ラ児ニアタへ久上キ時八変デ乳癖腹脇結塊上 弱之或八乳母态三年冷肥臓ラ食之或八酒飲人後即子 〇八門三云食祥八即脾弃之乳食人傷二由戸脾氣孤

ナル名テ乳年上云 六飲二ツ〇医書大全云支飲八吃遊師息短

氣三テサリラ得べ其形腫ノ如と

生泡小児生レテー身コトくク魚ノ泡ノ如うたモノアリテ水品 生し下テ魚ノ泡ノ如ノ水晶ノ如ノ碎上き八水トナンラ流次 ノ如らりて破い水トた俗ニアハゴト云りへ入門三云小見 モノ乃胎ラ寒温三受い

上氣病源三云夫百病八皆氣ョり生ズ故二怒ルトキ人氣 少氣氣八月九八八百八扇源三云少氣八臟氣不足三五 中方此故 上上書了時八氣緩り患人時八氣消之恐止時公氣下 ル寒に時八氣枚聚し熱元時八腠理開ケテ氣泄ス と食シラ氣逆上るこ 爱ル時八氣配ル努スル時八氣糖之思フ時八氣結ス 九氣同力灵怒ルトキ八氣逆又甚二十時八嘔血之及

事力結之城亦手屈スルガタメ三發ス俗三手中神屈とる

手心三難ラ生ズルの準縄三云手屈ノ原

狗家狗家招九トッケー眩暈とテ頭、重き之招大頭 四三云狗蒙い物ラグラ其首ラ家が如招搖しテ定ラサン 視点蒙八注味に招八掉揺した八甚之族生類註心、八月 舟車上立かかし起上十八郎上次山服各耳龍屋旋 祝神上テ定ラサラ云へ張景金力註二角八亦巡二作作 搖物家八日野動与家味スルラ云目冥是へ招搖八頭 キーキハ肝三人,滑伯仁が注三狗家招九八萬作狗家招 ツク此手ノ三陰ノ経風熱聚毒ノ致ス所方 七八月冥耳難下實し上虚又過足ノ少陽厥陰ラー甚 痛ノ如三頭ブラくふり之〇五藏生成篇三云狗蒙招

衛祖 準繩三云府ノ上寸許三祖ラ愛ス四ラ街祖ト名ラ きが 轉スが如心甚シャトキハ卒倒らテ人事ラクリョス乃肝 又中發疽上名丁三壅野祖上名少人心大熾盛之流三 王之平将黑色膨脹恶心心膿水清稀三六內督疼 野経二人テ致ス所に腫高三腹棚、色赤キハ治スでし 漏湯甚ら少浮利度ナク語語直視ノ者ハ死ス 田班小腹、後、テ疼痛、テ根寒熱で一云り此、文言 又衝班上云衝班小腹三發又故三名人一準繩三云

赤根丁齊病源三云齊一形狀赤豆一如人或八版下三生三 鴨アノ大サノ如心世人識ズンテ但其赤キラ見テコンラ赤

根十億十六十

過陰療 下拜之類之〇百効三云腎虚三月風湿相搏于那

氣己ラ成ス強痒糖ラナレ浸淫しテ汁出状疥癬ノゴトン

湿陰療上名ク

紫衛風 陰並ノ赤ノ腫ル事へ〇百効三云紫循風小即陽

物紅紫三年とテ、當上ガラザル

上格手ずへ手ラ打カケチノト、マルトコニカラ生ズと〇

五家二云有上項十二生又有人上部三アツテ或八左或八右

重敦难 蓮八腫上同心〇医學綱目三云種敦頂八兩之一指 後三生スピノラ對ウトスコレラ上下搭手こいるいた妻と ラ上格手トス背ノ下部ラアラ下搭手トス或正發之腦 三酸ス五日三九アカサンハ死ス 病源云九八腫風冷ラ校中十八消世スレテ結レテ

今七手足上モニアルナりの病源三云手逆廬八十二経了節 脉手指三起ルモノアリ其経虚し風邪コン三客トン世界フン 手足水甲ノ際皮剥テ起ラ遊臚上云俗三云サカ

亦流腫 病源云風熱上血氣上相搏熱毒力恢為其狀腫 蛇體并蛇身 蛇皮ノーンの病源三云蛇體皮公庸ノ上蛇皮ノ 起于色赤之氣人流行三隨产移易又故三流腫十云り 如ク鮮甲アリ世ニシラ蛇身へ云り 蛇皮上衛 六明密山血氣ランテ 波濁せいメ皮膚ラ祭 潤スルア 夕父母歌とう其状蛇ノ鮮ノ如と世呼蛇體ナーホコラ 香雄之人皮腫枯刻遊之起少之ラ遊腫し 越奏聚英三云目,随久之力赤爛又俗呼于赤瞎上之 身ノ皮人が起北病之○病源云人ノ勝理風ラ受ルト

失樂或日俗三去十三十一八正宗三云失荣八先三得了後 失之始了富于然一隻夕亦富貴一居又十十八日其心或条欲逐 色変式日久三斯夕大學題三石ノ如クコレラ推不移 九二由了中氣ラ損傷之替火相疑テ隊渡道ラ失し停結 ランラ按公勘公半載二年ニンテ方三陸痛ラ生ご気血 三夫妻ラち多久面項/間三生べ初起ルーキ微腫三皮 以腫沒テ蓮ノ如ノ穢氣薰蒸、テ書夜歌以平生吃 略 即久とす愈大すり越二次へ越三座と俱三不治と症く 罗衰一形容瘦消之破爛上紫玉野二三五水了珍流之 惠齊方三云脚腿紅種一一熱火炎又分如十亿三

利下スレ 動又濕小多八個ラナス火氣分ラ傷、八白ラナレ火血分ラ傷と 三為南ノー症と世為上痢疾上之〇入門三云血八次三因テ 八赤ラケン氣血供二傷火赤白相第又云南八利之法當 赤遊風と名の鉄銹水ラ塗テコラ解スの準縄三云版 ラ赤遊風上云白キラ白遊風上云り 外或八腿骨腕ノ間三痞福ラ思テ遊徒定ラサルモノ赤牛 俗三鴻南十云火泄鴻ノ痢症ニナリョリタルラ云リ方書 入門云濕濕以水人領下力如人腸鳴身重人腹疼中心 在腮ノーン〇百效三非腮最愛上同シ上云り

亦順赤手腰一如人无物之太便三下又痢疾 · 黃黑病源三云風和冷氣経脈三客上,隨虚止血弱為 白南亦赤十一白十十相雜了下小朝病 音離病源云本音雜是風冷審新之間。客上之子 声アリ世一南音雅上云の此高一間りは語をモルーマ 歯断シデ落せてテ腰出其歯則疎ス語トキ風過ル 愈テ更三酸スコラ南漏上云 病源云風和歯根三流帶上三断少三種濃汁出 俗云ないという病源云去歯墨八是蟲歯ラるとれる えてアタンス枯燥シテ潤ナン故と出ラ黄田

酒數鼻俗三云サイムハナン酒ラ好テ常三飲人之多久之 遠講注 講出了之前出タリ 歯題 是モムレクヒハ之其内前歯ラ食フむトミタリの病源 ノ生ラ食ラン 萬挺 病源云頭面三風冷了八傅子其脉天川本斯 ラが歯ランテ疼痛せな一番ラ食とツクレテス度テ餘 至了朦爛之汁臭之之多審蛋上云 云歯頭八是歯る食ノ歯根三孔アり重蛇八其間ニアツ 間ノ津液ラムテルシテ腹汁トナサンメ血氣震場三大

しアリ 入門音歌云真と紅點ラ生スナリ 要決云 酒飯泉八肺風三属ス食了アダンナイへに自ラ生ズルモ アリコトノク酒ヨシアラズ酒散人俗三呼ノ三〇病原ラマ 設赤地上云り 潘唇ノー之本條三詳之未井水ノ如ノ唇ノフザケタ、

上潘通山用

原下チ酸と年ラ経月ラ累又又唇溶と名ク

地目了之本像三見多り

要談云手魚手腫痛三或八掌指声川于時

蛇師 病酶ノ了之本條三見タリ 合合行人具名十月前三見夕り

赤鼻 選鼻拜了之〇八門三云小児身下兩道赤キラ名 テ張鼻狩上云水海フ用戸洗上黄連ノ未ラ用テコ

ラ服せいとと云り

亦黑丹 丹毒一種有〇病源三云丹毒本是毒熱力 赤海并赤连丹 首大丹 使一开毒人像下二見名り 冷熱五三交相積盛しテ色ランテ亦黒さるムルン 丹毒ノ種類Cの病源云丹先背三發上倫立

三起ルー日一夜三種トたコンラ朱田丹火ト云、 歴起ス其 風気 丹毒人種類之○病源三云丹两體三發之一日ラ過ス ごこラ神大丹上云之 一年 一日 日本 な妻と種類この病源二云丹愛スケー切み背ョリ ノ如ションラ茶蓮太丹ト云こ 三随テ遊行ス行遊とテ定ラス故意 この病源云是丹毒ノモッハラ赤色ナル 親こ〇病源三云小児肌肉虚スキンア ラ持テナストランである

赤膈傷寒人門卷三三云俗二赤膈傷寒上呼曾膈赤 風癲狂力如之了軽年症之〇要缺三云心風、精神忧 たしう語怒常とえ言語時或,錯亂ス瘦ノ意アリテ 腫疼痛し寒熱傷寒二類こテ正傷寒ニアラサルで 顧,甚年为如了文是疾氣人力之所方 果子ラ生ズルしト云りを頭ノカワキテ里の色ニャルを我たへこ 云川又貫服王蓮腹正云り 俗云痘塘人为世八丁之下八門音歌三音掩面二 丁身ノ痘療残え水ラモルで腹 フラ

汗ッカクハ自汗ニアラ安居シテ汗ノ出りと 五陽州三夜中同分寝ノ人故する了忽十月う相打 別處三汗ナク以子ラ三汗スラ心汗ト云り 水屑虚三 常三汗ラカクラと 身ラ動格劳役とテ 入門四三云飲食习停蓄之数白乃于為之腹脹入九 便毒人異名之中加下八カリモ云り イン本降三見かり 心心如何其項

上馬雕即門雕三見名正宗二坐馬雕上云り大股人内 悲願、俗三云アサノ丁之際、字景三方音點無限之又云 音枪面黒子れたり 今れ俗三沙店上称スル是ナリ 斗ノ如う皮膚頑厚三陽物短縮之小水利せス痛、ス 温楽中二浸しヘフラ致し小ナルモノハ升ノ如う大ナルモノハ 水ヲ取テ喰と、息スルラ焼テコニ湯ヲ飲らい一云り 毎己とり名ラ沙魔上云寺人比三號テ黒ケリトは人性令 俗三云ホシノノで黒子上同立 正宗三云臺鄉内生冷三傷之外風寒ラ受以一寒

陰震ノカタハラ左三發スルラ上馬離ト云右三發スラー下馬 遊風光縣眼毒 際羅 具二鶴歌風八條下三見夕り 膝遊風八勝八三扇膝ノ上下三引破ノ起こう甚のずと 明勝風ノマタンキモノ之際眼事の際ノ西方際眼ノ所 性痛と膝癰い膝ノ盖ノ腫痛うすり

九俗意意迷風上呼り 新十人八指以テツシムへもこの壽世保元芸産後發熱 産後其成ラ犯スーキハ夢勢ノ症上九氣血素ヨル 準縄云食三傷ラレルヤトンテせせと歌とテた

夢風 入門三云產後風二中九月樓風上云養了八十十二 夢夢原人症とた り満席ノーン在所ニナラリ居中氣ラ勞之又八風ニ中小 自汗收外感福人人名于萨劳上云

温寫榜 病源二云鸦燒王之風氣少夕温氣多乞公其唐 痛痒とテコラカケバ汁出テ常ニ濡温ナルモノ此蟲毒 テ居名所一敗血ノ痛ぐ云義之事竟厥血ノ痛し 氣深夕肌肉ノ内ニアル故ナり 風毒と氣液とテ温多コンラカケい多ク温淫とて極 俗三云産後アトグラノ痛かりし鬼胎ラツラ枕こし

中三東ラ生ズルンス水的人方人公司 近置急に備べい ナンタニだから山礁 野将ノ人八預ごメニ薬の細末 シテ 俗ニ云クチナンとけこタルアン雄黄射香を口くノ思蛇 起了小三三ヶ奢皮薄夕常二水汁アラテ出之

不養亦聚ノ分チナリ〇病源三云五號ノ氣積ラ名 下横下云亦府八氣聚ヲ名テ張ト云積八痛テ其部 云積、除氣之聚八陽氣之故 陰八沈戸 休一場公連 雅し又聚八其痛常ノ處シアノートしの難経五十五ノ難 ラ己〇五種八肥氣用依然心疼氣脾息貨肺

小勝氣 要決三云氣八寒三因了聚于瘦十九即是病氣 温水 病源二云湿水八水氣皮膚二溢」因于腫滿世之人 七个己ラ横弦堅強ト云臍ヲ焼ラ走注之小腹病痛 スルカの玉家三云疝氣俗三小腸氣ト名力其實ハ小 勝三て又其屬スル所ノモノハ歌陰肝経亡 女生ノラ名了温水ト云り 指ラ以テ内上:書る八随了書之随子散こテ文字ラナナ ナスと変あって 野十八六聚八六府ニアツカル之 此四時八間忽于非節ノ風アリュン・感之傷之テ病ラ

三其戶氣腹內二人尸頭十相下六川 全然上之戸死亡去腹中走氣雷ノ如えてアカコラア大吹上云 ら流注し寒熱冰塵と数くとう苦み所ラミラズやと 万病一種之〇病源三天人在 恒ナラズ豚動でした形知ルーナタ其耳ノ内キケバ循くトン 病源三云是五八人人乃注之外思非人無力被三身 四ク如九声り股間腰九是この医院三云人小三 上病一種し○病源三大其状死人かず一般之見る

赤を東 是ニラクモノ赤色たモノとの病源三五頭瘡ョッ 野市 病源三六血氣盛七八獨美こテ長してこ庫少不 小便的 聚血ノアン前三出タリ テ殿製ラクラと充治しテ白かナクオアラテ皮赤クラマ 足さい外ラ祭潤スハファタハズ故一覧養さるとれら 五職二入沈滞シラ内ラッア外二流注スと 與十十月四之或八段之或八色、骨節疼痛之邪氣在来 注柄/丁種〇一病源三云恶毒/氣食改造 生病ノー種とい病源三云風寒湿ノ三気合シテ

之故ニュラ赤売ト云り白光又八元磨ノ條下二詳し ツラ米粒ノかキモノと此勝理風かり受いヨルス云湖粉ラ 停三因テ皮膚虚スを人粉氣腠理ニヘテ化シテランラ生スル 豚ノ聚ル所を之風熱痰飲職腑ラ漬共肝ノ藏ランテ すの又是粉字班/タグとし 生スルを我ナル、こ 珠管ノ如まる公の接上目中へ珠ノ管ノかられなめ人 血氣蘊積と衝テ眼一般と津夜変シラ結聚ラナン状 俗ニスニキビノ類心の病源ニ云嗣面八面ノ皮上ニ海ア 又自珠管上云り〇病源三云見是五藏人精華宗

註三大朱枕八風頭項ニハテ疼痛ニラ利せて枕三就丁をない 魚血虚スに因う風に値う發動ス故、失枕スルへの類 邪因ラヘナリン按是 出合ノ城魅う指了云たご ラスシア致スモノヤアご血気ハ心ノ神ら神スデニ衰えこ 其一年の年に丁城と此ノ如キイボハイでダ無血光力から 思慮煩多と八心裏幅ナトンラ漏が如う強ラトン 那男人了之前二出ツ 病源三云朱枕八頭頂筋脉八間至風アシテ用ニラ 偷針眼ラ或八針眼トグリモ云り 那氣人多川之一丹溪为云俗三衛惡上云謂形悉思

短三三方前とかんモノニラ膀ルト云此氣血沈行西方其 武手足,皮肤此之 馬ノチ、足所脱スト云り 聖たか如年是之高洪水ラ治メ外二八年努役不甚と 八磨ラ生び或八蛇中痛し 宋ザル〇所成八字書文厚之又及聖之史記云 病源云人一手足忽然下手皮厚淡三圓 接当辛勤勞役八五民八手足、改 見こう過あタク陰悪

野海 又五東郷に云り 手足輝裂 病源王云雕梨八肌肉人破心言思及時風 間又日月脚八脚跳拆放少名之亦是冬時寒正和二 亦脚ララが破っという 節犯一方然に立て、ころ言即死處ノ町所八地り降モ 寒ラ間見ラ子是破れるの按に是俗云といすのリノ 五勢ノーツナー神泉へり血ずロラ物リスレヤスク大 又五吏濕氏云り皆脾虚之テ焼ぶ上二鴻スらと 亦雅一少之又胃瘧 云川〇野方考三云 八五味ラ

亡之飲食又八腹痛が膨脹又た 三吐ス名ラ食嘔し云之獨嘔吐ノ條下考べこ 了り惡食人八即吐入朝:食之于暮三吐之暮三食之于朝 醫學指南三云智腹脹悶こ四肢厥令之食臭う聞 で痛九種二少電院二食積しまりテ心二當テ 姓敬ノ時小便人治り好人腹中疼痛人之 坂ノ時兩足深腫スルカ 甚年時八脚指一腿 風うご使見り

傷を小き子と産り産り産り ヘラシラサハン懐胎ノ中風ナリ ライヘリ ウイサニハカキラスイツトラモ平産こえに出生四 或い月々えて動播撲傷なりるテトトラ傷テ産コ 半産ノフシ月満でラ産了さ 好娘ノ時心神問記えと此大肺金ラ対ない西し 姓娘ノ時月界口樂之淡淡寒盛之テ春ケトンテ 年版ノ時心胃脹痛之無逆ラー時間絶入し 姓城八時面自虚浮テ小便利せて腹ガニンテ常! ス胎水ト云り

五日ノ中ラ云り 三類スス云産病が愛スルトキハ身強り酸スカ海病の愛え 三同之〇入門三云脾胃湿熱之中焦毒 不被產後子官挺出去了人艺了了子肠八子宫 「キハ身敢とこう時」醒を上痛上相似之實的多く 小便ラクラコリカル血ラスとう白濁ト合せ三人と男女と 俗ニソリト元病之〇入門三云陽極な十八剛強ラ 多久風症三類大陰極ルトキ公来をラナス多么一般な り赤上白トマナハリ下ルラ赤白帯下上去り 婦人勝ノ下キリくト痛テ血ノラとて之帯下係

変い赤キモノコレラ赤殿上云白キモノコレラ白殿上云り 三後入了濁ラナス赤キモ八血分温熱甚らととトル 後不旦是赤遊風 腸トラン主と 并自藏 入門班於門云面皮頭項身體以內色ラ

刺風 病源云風那身三走偏之一皮膚活躍之形氣 素権 産病三見タリ○丹溪カ日電スルトキハ剛柱ラナン虚ス ハス裏急こうかくファタハサル ルトキハ子をラナス皆危症ナリ 病源三云血氣上王三虚之風邪並三人四肢收了了

射工 病源三云江南ノ射土毒蟲一八短狐ト名ラクース 正氣上交事と風邪撃博テ錐カニテ刺じか如こ故三 ノから南地暖たん故三太陰ノ時も草木 黄落せス伏数 地上名夕常三小澗八水内ニアリ此歌口内三横青了 一震災羅毒暖ョッテ生人故 嶺南八仲春ョリ仲 病源三云夫前南八青草黄芒棒指領北傷寒 記、デ青草ノ煙行と季夏ョリる冬記でデ黄芒 原ト名ック ラノ如と其蟲形正三黒ク太蛮ノ

唐とえば風り悪三後雲寒然之或八針三利が如人其 強初八豆粒黒子ノかり或八次焼ノかり或八腹腹原 ノがい皆肉ノ内ニな、空アり大け針ノ孔ノ如之其射小 中或八傷寒ノ如夕或八中惑三かタリ其毒三アタル人ない 即于停住に沙ラ含了人影ラ射上八便于病与初テ得ト 月雪其上三九日疑ラズ夏月八水内ニアツテ人水上ラ行 便力追于人家三流上入或八道上午馬等人敢为三遇三 及に水ラ以テ洗浴に或八木雨療ノ時二因テスナハチ水ノ 雌雄アリロとき三两角アリ角ノ端三位アリ大は風をス 冬月八並ニキ内ニアツラ強ス其上氣蒸ルフはケトレテ冬

人頭面・中にたきす一腰以上人心ラ去れて近キモ人多 冬月八蟄シラ上内ラリ人己識したモノハ取テこる帯の死ス腰以下。中ルモイルと覧し治せせい死ス此人最 ラ服ス夏月水中ニアルモノハ用ユヘカラズト云り 選邊三行若以病毒を得八乃を学者とも動きる カラス人水ニハラ沿こ及ど湯浴をハ上は戦争ニック及で陰 上ラ撃八福戦が如ク三日ラ過テノ 明日草間ラ行い亦人者便變是度ノ妻こん上美話法 学得,時一及上正一赤ク小豆棒碟ノ如こ手ろ 又日山内人水間三沙野アリ其大概甚多知でラ見へ

此最沙ノ中ニ山り人此二中り咬いい針ノ孔ノ如ノ東なノメラフ身ラ漢水ノ張り落八處三倒了挂于水梳り流入 如ノミラ其四面五色三見工两三日人間三死スト云りのけ 殿又則毒蛇ノ鱗ノ中ニ生ズル、地つ夏日毒蛇此地苦 酸八水中三在ラ色赤久大サ戦ノ如之人ノ皮膚三入上バ 交スケニモ北盛死とラ病除クト云り〇太平廣記云が 上三着テ光三映スパ行動スルー見りると挑テ得せい上 深キモノハ針ラ用ラ臨子ラ焼ケ取正三新盛ノ如こルノ 設入熟見處う看于竹踏フステ排拂テミラ去八己三 寒熟之方赤上三塘为發火此便蘇斯ノ入テ門三至八人子

後方三家日或八水中或八数中之行三四虫乃千人三看 其病习遭肠外上各夕又一種溪毒玄中記三水好上名 ツク洪範五行傳是少越上云毛詩三云思上心越 (カラス其物見でカラト云り被空此論病源!○此重八足 長サーニす廣サすがり敷ノ形三類とり六七月三野ノ後旅ノ順一曜三似テ腹敷を育趣と甲八黒色三二テ 足アリー足の成一下三下大丁渡鬼沙西 下三班り飛うやくノ声アリットがり頭目間ク黒こか 一角トラステラトムテ無ラステ大トレ水中ニヒソニテツ トニテ含テ人ノ影ッ射ル射土ノ状ナ、扇とラ前産

玉丽并真玉瘤 要瘤人像下三見多り〇丁志三路川人在 キハ差 ヒニュテス然リニ 東西瘤ナリマサニ 剖テコンラ ラ頰ノ間=生じ痒てなご、カラズ母=火ラステ焼免ルト 發沙城上云川北人此證戶八青筋上云川後三見夕川 其毒ラ檀えんが相チカクのター其毒ニ中リテ、病ルラ

海寺北海ノ別名ナリ後三見タリ 竹ある。在中了之本像一見及り 外ョリヘルと 張介實力日准發南風瘴之地三二十分亦學亦 以下各多又工個為事去中也。水水里下台

ラ衛山トス類注ニ云此督麻臍ョり上ランラ貫ク故其病 ラナストルノから名う町山へる蓋と町はラ東ライカラくそと 此尹野漏上名夕或八野滿漏疾上去 精治三年歌ーナク時七三銭三天教力の己ラ投の時 骨空論三云少腹ヨリー中心一貫之痛前後ラ得な 或野滿漏精上云りの寺疾方云云並硬与凌べ 俗三天カハキノ病すの入門三天経三云二陽能でしこう 麻参了八指子三見女り 俱石掛うと

湯上云二陽八手人陽明本勝八事被ラ主」「足人味

でかれて八未文服滿二傳へ又大自英力省完七上 大和ラ破り了蒸蒸ストー日久之り氣血凝滞ス故三能 食人にモハ未ダ癰塩。傳へズ水自ラ温い食人い 或八餘熱肺ニッテ口乾渇ラと喜ラ熱湯ラ飲又日 神耗散こう胃ノ気竹ラズ或い病後胃虚こう津ラ亡こ 事了冷水ラ飲血分湯スルモノラ内傷势役三因ラ精 外威裏這是因用或八替燒力服食之熱津液为耗之几天了日時八大勝下表意及之之又氣分遇人工人 胃ハ血ラ主いル津血不足を予發之テ消湯トた大原結ス

The state of the s

消人熱上焦心肺デリ煩燥之一古法夕唇紅食少 人飲ラ引小便數左至人〇中消八熟中焦脾胃= 書了 製ラ消し善飢テ甚ダ湯共小便赤ク数 り腿膝枯細面黒ク耳焦し形変と、変と世俗教病を自然を随テ即于勝下小便混濁ご子胃淋のから然大便硬しの野消八熱下焦野分三伏とテ精過水ラ引大便硬しの野消八熱下焦野分三伏とテ精過水ラ引 一形ノフナリ本像三見タリ ナり本係三出ツ病能論三見タリ

子母自 類案三云一婦人忽手點一對ヲ生ズ地三於テ能 死枕愈病 類案三云一人滞冷ラ惠フ積年度ろこり武水 玉案三云教水淋漓スケアシテ来作少キラ武水 試形 玉案三云姓娘一月人前三アツテ 總本上三丁腹痛大 注に當三死人人枕ラ得テ養テ服シテ刀チ魚でと古城 ノ中三往テ枕ラトル枕己三一邊府関及服シテ即于愈又 起り産むと欲スかからして産せがとくをいこう就月と云り 九月三至ティティーショ此必べる治せがない、分娩、 胎氣ノタメニ約せえ、改言了能が 後察世又之了自己愈儿之盖之格三像野豚八舌之贯之 玉客三云粮水冰滴スルーアンノ来ルールキラ武水

行長十余段後月三一對尹生又暫苦参ラよう打築三加 「ラカトナンコンラ服せンム又一對ラ生ズ上中三埋ム數月ラ 過テ後テコンタ見が暴二大大小拳ノ如と子母車上名ク 多字實感瘦胡人來多少了一班之世去長一丁分月 此ヨり根ヲ絶上ン 色青人狀態一如此可消數車上名人 かたい限せる其虫コトくクル出ス 震花溪一婦人ラ治スを面ラ思了花椒二分苦練根 説消云果郡ノ人幼ョリ数食ラ時な食スル丁食 雪唇 此飲食不少等自己致雪或八

人心為水 本州網月透山根ノ條下三 臨安ノ僧法堅之 客了者少中三過ル一蛇腹脹少三ル一草ラ臨テ脂 こう食でンメノラシテ内野操軟ナランメ然後三補兼ラ服と こ內腎結硬久補藥ラ服ストイへ氏入ラダ半野子一對社 仲長サニす潤サーす一片ラ用ラ固ク煮熟シテ空心 皆至心少陰ノ氣至ルトキハ舌ラ雷少陽ノ氣至ルトキ 頰或公唇为之〇靈樞三云黄帝一日人自文古三雪 モノハ何ノ氣然ラム九中岐伯ノ日此一歌逆走上之脉氣 、類ラな、陽明ノ魚至上キ八唇ラカム 陰莖ノ硬ナイン〇難奉備急方二老人腎ノ藏寒

ラムラコンラ糖シテオス比草ラ念了三公プラタ服え消スト 取了鄉中置在旅館一省又辦後人了腹股之病 ゆらえり間金ラステ薬ラ煎して盃ラアメへ服せとり 記べ其人の内は一化シテ水トナリ独骸骨林ニアー 次シテナカルでと思う戦の歌ブルドキハ戦ノ色ラ金色ニナサント アラテ人ラ害スルーハガモアなら其織三黙レラ金トナ 其金ノミノの即通體金トナリの故生此州鐵馬シテ シアリテ復声ラキカズヒニ安シトラモヘリ 世三至リテコンラ 金上九上云り蜀中ノ山谷二生之草藤華三類スト其大毒

聚毒塞院風 医統三云喉關聚毒,延睡稠粘之路吐之 沙發病發沙病了了〇医統云溪澗一中射工蟲事之蒸病。發統云麥察古方三名了蒸病上云是乙 淡醇 内障一種之〇醫學網目云緊疑明色一如宜 四肢好石、類然三六人寒熱ラ發之四肢堅硬三一一 ノ如心俗:沙發病上云 行人ノ形影ラ射人己三中ルトキハ病焼ノ如ク状傷寒 等分ラ用ラ水煎し丁一服三上テ愈 クサンテュンラ機プで ノ如シュラ学が鐘巻ノ声アリ日三東渡ス茶英木香

消食體 或人无行病习得于後以一一本能食人一日二 に出カタギナリ 斗来了食又其家给又了五年質难,後食之之或 園=雄三班アリンラ地三坐とテ 其二時ラ食とは 腹中郎丁甚三丁其後門た丁ランラズ上其門面 州の縮水三テ終三臨天懂三要見しかし古二此疾さ 云前門己飯之又後門三来乞何少與中夜答了云 家門前里里了食多得了又後門三七其家人然子 だし人人識フセント云り 類案三云吕籍放上云人忽于病习得久り身能正

送經三見タリ シテ 調テ地三郎六二一物ラ吐ス龍ノ如上地下出于漸と二 飯ラシクハ即消化シテルトた此病母テ魚ルトナリ 小クランリ人阪ラ製」に更全食せべ其吐スルトコロノモノニ

民雄 医統三云眉州一米思古疾ラ得テ食スルーアスズ 問一考生食掛ノ病ナン記者ノ版托ナラクノミ ノ中言的名テ食掛上云上此家人傳記三載スコレラ素 妄ニ人ノ疾ラ医ス數スペク酸久し君ノ疾正三素問經 軍聖月開八則 吸入惟大鑑三子 湯 多者心 淡飯三天子 數己ラ食ス醫能治スララシ日俗軍内経ラ讀スシラ

殿殿是決三云でサ三産セントレラ脚赤ク腫ル俗三数脚 雄黄硫黄シ用テユラ金八即消スト云り 月身熱シテ沸力如シト云り 一間三遊走とテチュニ近と八微痛をテ小ノ痒とい 耳内:紫竹ラ生ズ又耳痔上名上云り医統二出 病源三云背三發之一發熱之八十日大三熱三戶行 醫統三云患療蛇/頭/如/突出之了數寸分月 至云世三言日遊神,犯觸テ作所上云! 遊禮一類心青黄赤白ニンテをル色ナク皮

臭田螺 足ノ指ノマを生じ破しテ泉水ラ出之一形が田源三條 野東風 〇正宗三云乃于肝經ノ風温三しテ成其患痒了ラナン熱 湯二谷八丁ラ島甚二年七八吃唇頭麻破了指水ラ流之 三属シテ治シカタン〇此衛祖ト同証ナリ えモ人陽三属シテ治シャスと熱ナラレテ紅とフなモノい陰 其患小腹漫」腫堅硬ニテ肉色変せズ熱アッテ斯ク紅 ク長サ三十一使テ色赤ニラ熱スに是こ丹毒ノ種類し 焼丸カラクハタケ糖,類ラ生ごコンラ操ハ夜、ラナスを 正宗三云七情火幣以了脾虚之致之氣滞了 病源三云初發一時心又排腸三丁り指,大丁少如

心心正宗三云足ノ陽明胃ノ経ノ湿犬攻注テ成此患多 人足人指腳が二生び随テ白班ヲ起レ爛ラと後事破 悪寒發熱えと其種斬り消えた成優又了ラボムと テ臭水シ流又形チ螺磨=似タリ甚らキモ人が直 三種ラと 破 裂テルラ流ニテ 疾さて愈かるこ 飲人致又所有俗三飲糧一名夕里山二熱乃子食有品 正宗三云陽明清火上り攻テ其患下唇痒了多聲 手足を腫れるの要談二云四肢腫れ己力及腫上云 物ララン食えたかやく病ノ類この要まって心虚い変 要決三云男子傷テ級ラ致スモノラ名テ瀬食的花 俱八

故意在人人表問三二ラ食座上云亦猶行人歌三類又俗此 雅十名ク

虚了し前三出タリ

メンス云恭寒 人っちきるるかとうと表ラルトノい

こうでせら發し先と問題をは下れたりりつこ

マは傷寒と云り

酒、病源三六人,酒,香了了了酒,食了敢了我一,多人教 然ランなと名テ酒寝トスルへ 即吐きラ多ク睡り復食スラアタハ山角中、シアツラ ラ食コト常ニ少う積えらう新ク変酒の思テ西の得せい

又其状或八年人或八痛三中医人佐人如 三至ルが如心即于量能之久子建心真即氣 シテコラ愛熱痰ラ探吐る了数サンテ即愈し 無り受テ然に現時程 べる 載又一婦此了病り強鹽 機歩し研テ河水、乙煎沸 病源云腹内人尸蟲上一人人吹咽之食于強力生 類家:云子生テ七日三之テ两野维儿盖之初×寒 小心大之風ラ得上半八個大笑人家との備門事親 俗三カワラとやでとこの經三云神像笑アツテは、 類茶三云一人忽于我了少了足心可行于腰間

蛇眼行行者/種類之〇人門三云状蛇眼ノ如心思眼ノ 心液汗 医林三六大人小児皆己了り心氣溢盛、之方面、施多 集要三六小便頻三多少或八禁也艺之 大珠野 眼野障ノー種之〇壽世三大状砕米ノ如うたモノ 湿腳氣 類案三云 人两足柱人如夕潰产黄水下川月日 ハ散ジャスシー 人及に嫉なノ人ノ見つうとこ ステ己己テ朝于發又此風湿毒俗三温腳氣と名ク 常三赤ラ發えん小児三輪三四丁ユラ得す 類經過其三云離祖腔中三近五人是之

上字弾ノタ拳ノ如ノ撃硬ニテ石ノ如ノ痛五内に強症 準絶三云甘心二當テ痛三麻木 常とえ 特香花町飲味中山未熟上了痘障テ見ルク赤澤哉 注病を種ニッナリ上下處トレテ備が上云す 注病人論中二見多り ラ好拳,如人學硬工ラ石ノ如ノ痛五内二像上 的科準繩云小児身大熟了發自汗止又眼 急た此力酒毒愛殖上名力飢飽等傷冬時

脂瘕婦人小般一種すりの病源三云脂般ノ聚ハ人ラレテ 嗜眠 メタト眠りが止症しの病源云陽氣精力文神 酒學 論勇篇三云性进入酒尹得テ於勇士习避如者尹戸頭蠻 俗三云口名之十月飛頭蠻人條十三見多月子野 子順亦子曾下名之準總三見多 明昏寒とう眠りったり 四肢學ラ文飲食すカラズ即テ席ラ安せべ左右三走り腹中 文滿之聚急痛せ之又疾揮小腹三引ラ重ク腰背刺状ノ如う 名了酒學一日〇時八字書三幹一同之母有影力 子間亦子胃下名人準總見多 推車間雪/條中二見名

蛇般 婦人小般一一種力の病源三云蛇般ノ歌上心町 切痛不時一邊時是人少氣頭眩月水役千來少人子去 ア常ノかクナラズ大小便三血止ズトし 了食 長大三年其形際人如人所ノ上下ニアツテ選坊上 ノ水不震ノ食蛇魚ノ精ラを留結こう去で因テ生スル ス未ダ成サモノハ治スでして是症、腹中虚し或い方井 後月水前丁多少有丁少少其手足形少女五八八人了段 膀胱除中二引腰二學目痛二一動作二力少寒熟之人

唇疽正宗云唇ノ上ニ生ン丁頭門腫起了寒熱交化 小陽雕正宗三小楊離八腹疼臍突八七八是十八十六月 南級野宣ノーン手事軍事をテ五ノ出ルー人風聖野虚 蛇出唐 張果醫說三載又披青篠記三云人了り附唐 以テ こラトル其病ツーニ愈 三名に即手換九ツ三日コンテー小蛇樓中ョり出鐵針 見りる代夏出心故と生蝦蟆ラ以テ揚テ己ラ博日ニ 患フ冬月八頓然上之テ無事で見場痛言へカラズ一道 人三遇云夕爾草上ノ行ヨッテ蛇交遣瀑多巷塘中三蛇 ノ二證アリ

熱人致人所な 頭腦三生べれ直と正宗人 タルカタチンヤナルラスがコムチノンハルトス

病名原解卷之六数 旅尚刺肉 准绳三云腹十三十四日三至九時八階一老子落 、發復人義十一等後、房勢到了了りからして 独しよう老子落だとより名子添面刺肉トムリ フッツメ白眼でくろと睫子ラカクせんと意吹電俗 こ上ラミツメ瞳子ラ轉ぜたハウカいエルノサラと或ハス上

少をとした

